

第36回（2020年度）マツダ財団研究助成一覧 - 青少年健全育成関係 -

受付番号	研究題目および研究概要	研究代表者 (*役職は応募時)	研究期 (年)	助成金額 (万円)
5	放課後児童クラブにおける子育て支援の現状と課題 ～保護者の子育て不安、ニーズ、満足度に着目して～	浅井 拓久也 秋草学園短期大学 准教授	1	40
	<p>本研究の目的は、放課後児童クラブ（以下、学童）における子育て支援の現状と課題を明らかにし、学童における効果的な子育て支援プログラムを提案することである。</p> <p>具体的には、（１）学童利用前後における保護者（以下、利用者）の子育て不安の変化、（２）学童が提供しているサービスと利用者のニーズの比較、（３）学童が提供しているサービスと利用者の満足度の関係の3つの視点から、学童における子育て支援の現状と課題を抽出し、その結果を踏まえた子育て支援プログラムを提案する。</p>			
9	聴覚障害児への遠隔情報保障に関する検討 ～学校への導入と支援学生養成の観点から～	古田 弘子 熊本大学 大学院教育学研究科教授	2	90
	<p>聴覚障害児は、その障害ゆえに多くの重要な情報を聞き逃すため、学校生活に十分に参加できていない。これに対して、文字による情報保障を行うことが有効であるが、学校での導入は遅れており、支援者不足にも直面している。そこで本研究では、支援者が学校に行かずとも支援を行えるように、遠隔による情報保障を導入する。支援学生（大学生ボランティア）の養成研修を実施し、熊本県の学校教育現場で聴覚障害児への遠隔による情報保障を試験的に導入し、課題と改善点を明らかにし、導入のための道筋を提示する。</p>			
19	ポストコロナ時代のハイブリッド青少年交流環境	富田 英司 愛媛大学 教育学部准教授	2	90
	<p>本研究は、感染症等の拡大予防措置で社会的隔離が必要な状況においても、青少年の健全育成に最低限必要とされる社会的交流の機会を確保すると同時に、対人接触の自粛緩和時に速やかに現実の交流に移行できるような、地域社会と連携した地域密着型バーチャル空間を確立することを目的としている。募集対象は、社会的交流の機会が激減した子どもを持つ家庭とし、ICT機器をその適切な使用方法の学習機会とともに提供する。参加者の行動やアンケート結果を解析することで、子育て支援へと繋げる仕組みを構築する。</p>			
21	オンライン放課後 ～運動遊びを通じた子どもの居場所づくり～	村瀬 浩二 和歌山大学 教育学部教授	2	90
	<p>本研究では、オンライン放課後プログラムの開発を目指し、子ども達が参加できるヴァーチャルな運動遊び空間を創造する。このヴァーチャルな運動遊び空間は大学生を中心としたボランティアによるプレイリーダーにより運営され、参加者の自律的な遊びが大切にされ、かかわり合いが大切にされる。参加者は小学生の異年齢集団とし、家庭から接続することを想定している。ヴァーチャルな運動遊びに適したオンラインシステムのデザインとファシリテーションの行い方を確立し、アクションリサーチ研究によって、その改善を繰り返すことで、「新しい生活様式」に適合し、多様性の中で心身ともに豊かに成長する機会となるヴァーチャルな運動遊び空間としてのオンライン放課後プログラムの開発と検証を目指す。</p>			
22	不登校・ひきこもり支援におけるオンラインツールを使った居場所の可能性と課題に関する研究	櫻井 裕子 奈良教育大学 教育連携講座研究員	2	90
	<p>本研究は、不登校・ひきこもり支援において、Zoomなどのオンラインツールを使った居場所形成と保護者会の運営を行うことを通じて、オンライン居場所の課題を整理し新たな可能性を提案する。具体的にはまず、オンラインでの活動と参加者の相互行為を分析し、オンライン支援が要支援者や家族の行動と思考にどのような影響を与えるのか、これらのツールを使った支援の特徴や課題は何かについて検討を行う。次にその整理を踏まえ、学校場面や訪問支援が難しい場面におけるオンライン支援の適用の可能性を検討する。</p>			
合 計 5件			助成金総額 400万円	